平成24年度学校自己評価表（1）

鳥取県立米子高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	生徒の能力と個性の伸張をはかりながら、基礎学力の育成と基本的生活習慣の確立に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。

今年度の重点目標	1 学校改革の推進 2 基礎的な学力の向上と能力・個性の伸長 3 進路実現のための進路指導体制の確立 4 基本的な生活習慣の確立と地域貢献活動の推進 5 国際交流活動および国際理解教育の推進

年度当初					評価結果（2）月		
評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	最終評価に対するコメント	最終評価
1 学校改革の推進	○45分週32時間の時間割へ変更し、教育課程を系列重視に改編した。	○新教育課程も含め効率的な教育課程の作成	○進路実現に即した平成25年度教育課程を7月中に作成する。	○学習委員会を活用して総合学科の特色を生かしつつ進路実現に対応できる教育課程を作成する。	B	前年度に練り上げてきたものをベースに骨格は出来上がった。更に各系列の特色作りを進め、生徒の実態や進路希望により対応できるよう検討を進めていく。	B
	○委員会を精査し、学習委員会を発足させた。	○学習委員会の活性化	○月1回学習委員会を行う	○学習委員会を通して、生徒の学習状況、校外模試の結果等を分析し、学校としての学習指導を推進し、放課後講習、長期休業中の講習の活性化を目指す。	B	講習については委員会がよく機能して活性化が図れた。学習状況、模試の分析はまだ十分な推進にいたっておらず、分析を基に課題を設定し、効果的な学習指導を模索していく必要がある。	B
	○分掌の統廃合を行った。	○新分掌の業務遂行の円滑化	○極力短縮授業を行わず、生徒との懇談の時間を保障する。	○分掌業務の見直しとワークシェアを行い、より柔軟に業務にあたり、生徒への指導時間の確保に努める。	B	担任は分掌業務が減り、生徒と関わる時間が増えた。分掌内の業務分担については少しずつ意識が高まり、円滑化が図れつつあるが、更に意識改革が必要な部分もある。	B
	○「産業社会と人間」の内容変更を行った。	○「産業社会と人間」に続き、「総合的な学習の時間」の内容の再検討	○今年度中に2年次の「総合的な学習の時間」の内容の見直しをする。	○企画委員会で「総合的な学習の時間」についての見直しを行う。	B	企画委員会を毎週開き、25年度より2年次にプレテーマ学習を導入することとし、内容や展開の要領作成までこぎ着けた。職場体験は廃止することとした。	B
2 基礎的な学力の向上と能力・個性の伸長	○進路実現のための学習時間が十分でない生徒もいる。	○基礎学力の定着のための取り組みの強化	○家庭学習時間を増やし、定期テスト・課題テストへの参加科目を増やす。	○生活[学習]時間調査を年3回実施し、学習時間の確保に活用する。	B	主要教科の課題テストへの参加は定着し、更に模試の利用も加えることにした。学習時間調査は2回実施、学習時間が増える傾向が確認され、成果が現れてきた。	B
	○学習への動機付けが必要な生徒もいる。	○生徒の学習意欲を高めるような授業の工夫	○全教員が授業評価を年2回実施し、授業公開週間に授業公開をする。	○同じ評価項目・評価基準を設け、授業評価を行う。 ○各教員は授業公開週間に2度授業観察をする。	B	授業評価と授業公開は7月、12月にそれぞれ2回、全職員が実施出来た。授業評価は統計処理し、学年が上がるごとに評価が高くなる傾向が確認された。授業者の振り返りに一定の効果があった。	B
	○生徒の興味・関心が多様である。	○生徒の興味・関心に沿った体験活動や発表の場の確保	○福祉、保育、芸術を中心に体験実習や発表の場を提供する。	○福祉施設実習、保育実習、野外実習、デッサン講習会、総合芸術展等を実施する。	A	実習等は予定通り実施出来た。総合芸術祭は40周年記念事業に組み込み、更に発信力のある内容となった。全体的に生徒の生き生きとした活動ぶりが伺えた。	A
3 進路実現のための進路指導体制の確立	○進路希望にあった科目選択ができていない生徒もいる。	○進路・担任協同による科目選択の指導	○年2回の科目選択面接の時間を十分確保した上で、適切なアドバイスを行う。	○情報交換会や外部アドバイザーを活用した上で、授業時間を削らず、会議の日程を整理して面接時間を確保する。	B	情報交換会を開き、外部アドバイザーの指摘を受け指導を行った。それらが有機的に機能して生徒の科目選択に活かされた。面接の実施時期、分掌との協力体制など、更に検証していく必要がある。	B
	○進路、総合、図書を同一分掌にまとめ、組織的な進路指導が機能し始めた。	○3年間を通した計画的・組織的進路指導体制のさらなる改善	○業務の結びつきを系統立てた年間指導計画一覧表を作成する。	○計画に沿って、進路、総合、図書の業務が有機的に機能するように、情報共有を図りながら取り組む。	B	3年間の進路指導計画を作成し、進路指導体制の充実に努めることができた。今後は系列に沿った指導体制と進路・総合・図書が有機的に機能する体制を構築することが課題である。	B
	○進学指導、就職指導の見直しを行った。	○進路指導の一層の充実	○各学年の進路情報交換会を1、2年は1回以上、3年は年3回実施する。	○進路に関する情報を整理し、生徒・保護者・担任等に適切な情報を提供する。	B	計画通り実施出来た。情報共有を図った上で、指導に役立てることが出来た。毎月定期的に進路部通信を発行し、教員・生徒・保護者に対して幅広い情報提供が出来た。	B
			○模擬試験・講習への参加者を増やす。	○模擬試験・長期休業中の講習等へ積極的な参加を呼びかける。	B	計画通り模試、講習を実施出来た。受験者、受講者の数も年度末に向けて増えてきた。模試の実施時期、回数は見直しが必要。	B
			○進路指導における教員の指導力を高める。	○先進校視察や指導力向上のための研修会を実施する。	A	予定していた視察や研修会を実施出来た。視察先への進学者の実績も現れてきた。	A

評価基準　A：目的・目標を達成した　B：ほぼ計画（予定）どおり推進している　C：取り組みとしてはやや遅れている（取組は進めたが、成果が出ていない）　D：一層の（新たな）取組が必要